

内包出血後の麻痺肢集中使用が皮質運動野体部位再現に及ぼす影響

○ 桜山 花子 1,2、John F Kennedy 1、五輪 優勝 2、桜山 太郎 1

1、名古屋市立大学・医学研究科・脳神経生理

2、東京五輪大学・体育研究科・運動生理

脳障害後の上肢リハビリテーションにおいて麻痺肢集中使用が有効であるが、その詳細なメカニズムは明らかになっていない。本研究では、内包出血モデルラットを用いて麻痺側上肢集中使用が、大脳皮質運動野領域の体部位再現に及ぼす経時的変化について調べた。

Wistar ラット雄の大脳皮質運動野の前肢領域部に皮質内微小刺激用のチャンバーを取付けた。7日後に同側内包部に・・・・・・・・

リハビリテーション、脳出血、皮質内微小刺激法、前肢運動機能

本発表について、過去1年間に申告すべき利益相反は（ある・ない）